佐世保日米協会 会報（第4号）

JAPAN AMERICA SOCIETY OF SASEBO Bulletin（Vol. 4）

Founded 1962

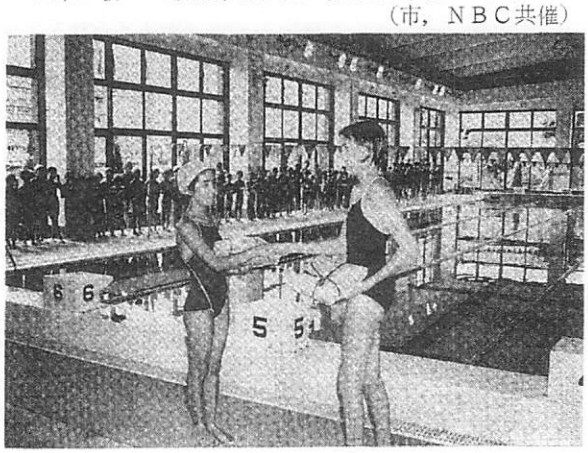
1988年 7 月 15 日 発 行

佐世保日米協会
佐世保市戸尾町4－5　佐世保中央病院内
☎ 0956—23—5546

• 佐世保日米協会定期総会
　○と　き……昭和63年7月15日（金）
　○ところ……玉屋文化ホール8F，PM 5：30～

◇第1号議案
（1号－1）昭和62年度事業経過報告
（S62.7.1～S63.6.30）

○ S62.8.9
• 日米ジュニア親善水泳大会（佐世保市営プール）
（市，NBC共催）



○ S62.8.25
• 理事会
• 総　会（佐世保玉屋8F）
• 懇親会（佐世保玉屋文化ホール7F）会費1千円

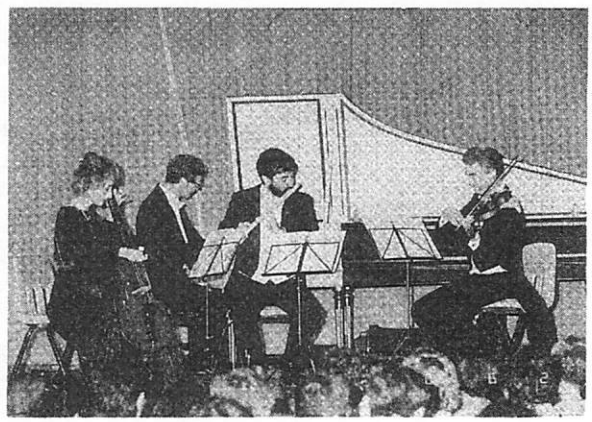
○ S62.11.22
日米親善ロードレース大会（ニミッツパーク）

○ S62.12.18
クリスマスパーティー（ホテル万松桜）会費5千円

○ S63.2.22
講演会「日米親善文化講演会」（農協会館）
講師：在日米海軍司令官
J. D. COSSEY 少将

○ S63.4.8
空軍バンド「パシフィックショーケース」演奏会
（九州文化学園体育館）

○ S63.6.2
アメリカンバロック・アンサンブル演奏会
（ハーバービュークラブ）　会費 1万円



◆佐世保を母港とする米海軍艦船

今年7月下旬頃，新たに1隻加わることになりました。

昨年の12月に入港してきたビューフォート号と同じクラスの艦船です。

ブラウンズウィック号〔USS BRUNSWICK（ATS-3）〕

ブラウンズウィック号は，高度な救護作戦，様々なタイプの潜水，応急修理，救助，消火，そして長距離の曳航ができる様に設計されており，救難作戦で通常求められる低速での機動性を大きくするために2重舵，2重スクリュー，艦首の横方向にプロペラが取りつけてあります。

満載排水量 3,500トン，全長 86.2メートル，
最高速度 17ノット，20ミリ砲 2門，50cal 機関銃 2門，
乗組定員総数 115名（うち将校7名）

米会員数の推移

	S.62.6月末	S.63.6月末	
法人会員	146(社)	155(社)	+9(社)
	156(口)	162(口)	+6(口)
個人会員	376(名)	403(名)	+27(名)
	420(口)	445(口)	+25(口)

♥日米親善講演会

在日米海軍司令官 J. D. COSSEY 少将を講師に迎えて開催されました親善講演会の内容を一部（「佐世保とこれからの米海軍」）抜粋してご紹介いたします。

1985年12月に日本に着任して以来，たびたび私は佐世保を訪れてまいりました。そして毎回訪ずれるたびに，その佐世保の重要性というものを痛感するに至っております。それは，こちらでいただく暖かい御歓待，そしてまた特に，佐世保日米協会の方々を中心とする人々の熱意，厚い御支援，またこちらの優れた港湾設備を拝見して，その重要性を益々痛感致しております。

佐世保が我が国で交されております相互安全保障条約の目標を達成するために，佐世保自身の役割を果たして下さっていることに誇りを感じております。そこで私，本日，米国海軍並びに，佐世保における米国海軍のプレゼンスについてお話ししたいわけですが，我が海軍の当地におけるプレゼンスに影響を与える様々な要因を正しく理解していただくために，他のいくつかの関係というものを明らかにしておきたいと思います。

朝鮮戦争から約40年の歳月がたとうとしています。そしてまた，安全保障条約が締結されてから28年が過ぎてまいりました。その結果，或いは，その成果というものは自明のものであります。つまり，世界における日本の経済的な立場というものは，日本国民のエネルギーと勤勉さによって達成されたものでありますけれども，そういった成功が可能となりましたのもやはり，日本の安全保障というものが，それより高い優先順位を受けてこなかったということが，ひとつの要因であると思います。

ここで私は，経済と安全保障の分野というのは引き続き別のものとして扱っていく必要があると，そしてそれは非常に重要なことだと信じています。しかしながら，アメリカにおきましては，現在議会でこれらの２つの問題を一緒にして考える傾向というものが益々顕著になってきております。もうひとつ私が懸念いたしておりますのは，今年がアメリカ大統領選挙の年であるということです。すなわち，計画を行う責任をもっております私のような立場にいるものの場合，日本における軍事力の将来というものを考える際に，この次の１年に何がおこるかと，或いは，次の１年で我々が今まで手がけていたことなどが大統領の交代などで全部ひっくりかえされてしまうというようなことになれば，その計画をたてるということ自体，無意味なことになってしまうからです。佐世保はそのような影響を過去においてすでに受けて，変遷してきましたので，私としましては，現在の職務にある間も，そしてまた，その職務から離れた後でも，引き続き努力をしまして，そのようなことがおこらないようにしたいと思っております。また，海軍計画の中で考えなければいけない重要な要素としましては，戦略的母港化構想ということがございます。これはアメリカにおいて前海軍長官でございますレーマン長官によって始められたものですけれども，この構想の長所というものは，より多くの港に船を分配，配分することで敵からのターゲティングをより困難にすることです。ですから戦略的に見た場合にこれは非常に重要な改善点となります。

しかし，皆さんもご存知のように母港化というものは，非常に大きな経済的な利点をもたらすものであります。つまり，港湾設備の改善であるとか，住宅，或いは経済面での景気に貢献するといったような形での重要な役割を果たすわけです。そこで，新たな戦略的母港化構想のもとで，今までそこにあった艦船が，他のところへ移動されてしまうということを許容するのは，非常に困難なところがあります。

在日米海軍司令官の私といたしましては，佐世保にどのような船をもってくればいいのかということを決定するということは，決して容易なことではないのです。或いは，佐世保に限らず，日本の他の場所であったとしても，どういった船をもっていくかということを決断することは，容易なことではありません。この両国の間の相互安全保障条約に基づいて西太平洋において，日米両国の利害を守るためにはどういったことが必要であるか，又，インド洋ではどうであるか，そしてまた，日本ではどのようなことであれば，受け入れられるのか，海軍自身が何が最良であるかということを決定したあとでもその決定そのものつまり母港を変更するという決定に関しては，それは議会に提出されなければならないわけです。そうしますと，そこでは政治的・経済的，並びに感情的要因なども出て参ります。従って少なくとも２～３年前にそういった変更事項などについては，あらかじめ計画をたてなければいけない。そうでなければ，我々の船員であるとか，そしてまたその家族が都市にやってきても，その場所にやってきたとしても住む場所もなければ，働く場所もないというような状態になってしまうからです。

さて，今年の夏にはブランズウィック号が新たに入って参ります。今まで同様，いわば佐世保のファミリーの一員として，皆様がこれからも暖かくお迎え下さるものというふうに私，確信しております。また逆に我々はアメリカ海軍が数年の間かけまして通常型潜水艦の廃艦を意図しているということを公表しております。それは秘密でも何でもありません。はっきりとした廃艦決定ということはまだ行なわれておりません。けれども，ダーター，バーベル，この２隻のうちのいずれかが，又は，両方の通常型潜水艦に対しての廃艦は，もっともはやい時期で1990年というように予測しております。

もうひとつの分野としまして，慎重に検討されるべきものは，揚陸艦です。すでに佐世保にはいくつかの揚陸艦が配備されておりますけれども，これを更に恒久的な形で追加的に前進させ，配備していくかということになりますと，数多くの利点をもたらすということは確かですが，はっきりとした決定というのは，まだ出されておりません。しかし，アメリカ海軍が引き続き，これは検討している分野のひとつであります。

最後にやはり，理解しておくべき重要なことは，米国海軍，海上自衛隊，佐世保市はこれまで，この佐世保市の将来を計画するにあたって，密接に協力をして参りました。しかし，必ずしも我々３者の利害は常に合致していたわけではなく，またそうであるべきだとも私は思いません。ここで重要なことは，やはり我々が合意できる数多くの分野をできるだけ利用し，そして何かの意見の相違があったとすれば，それを回収できるように引き続き緊密な対話を続けていくことではないかと思います。

佐世保は非常にすばらしい都市です。皆さんが，これまでに私どもになさって下さったこと，そして今現在もして下さっていることに関しまして我々が，そして私自身も大変感謝致しております。

そしてまた，母港化の決定をくだす際にやはり何にもまして重要な要因というのは，そこに住む人々の姿勢・態度であるということも，私十分わかっております。その点におきましても，そしてまた，他の多くの点におきましても，佐世保はまさに，№１であると思います。

（S63.2.22，PM5：30より，農協会館にて）